

Sermon for Japan, September 2023

Ambassadors for Christ

『キリストの大使』

2 Corinthians 5:16-21 (NIV)

聖書箇所：コリント人への手紙第二 5 章 16-21 節 新改訳

¹⁶ So from now on we regard no one from a worldly point of view. Though we once regarded Christ in this way, we do so no longer. ¹⁷ Therefore, if anyone is in Christ, the new creation has come.^[a] The old has gone, the new is here! ¹⁸ All this is from God, who reconciled us to himself through Christ and gave us the ministry of reconciliation: ¹⁹ that God was reconciling the world to himself in Christ, not counting people's sins against them. And he has committed to us the message of reconciliation. ²⁰ We are therefore Christ's ambassadors, as though God were making his appeal through us. We implore you on Christ's behalf: Be reconciled to God. ²¹ God made him who had no sin to be sin^[b] for us, so that in him we might become the righteousness of God.

16 ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。

Being an international church, MIC would have many people whose lives are closely connected to at least two countries: Japan and another. In the case of my family, Japan and Australia. But however fond or connected to both countries we might be, the reality is, as adults, we can't have two passports. As an adult, you can't be a citizen of both Japan and another country. As adults, we all must choose one or another.

国際的背景を持つ箕面国際教会には、少なくとも2つの国と密接な関係を持つ人々が大勢おられると思います。その人々は日本と他の国と密接な関係を持っていることでしょう。そして、私の家族の場合は、2つの親密な国とは、日本とオーストラリアです。しかし、どんなに両国に愛着があったり繋がりがあったりしても、現実的には、大人として2つのパスポートを持つことはできないのです。成人ならば、日本ともうひとつの国の両方の国籍を持つことはできません。私たちはどちらかの国を選ばなければならないのです。

This mirrors another citizenship choice that we all must make. The Bible tells us that we can't be a citizen of heaven and a citizen of the world. We must choose one of the other. And not choosing citizenship, is choosing citizenship (of the world).

このことは、私たち全員が選択しなければならないもうひとつの市民権の選択を反映しているのではないかと思います。聖書は、私たちは天国の市民とこの世の市民の両方にはなれないと教えています。どちらかの市民になることを選ばなければならないのです。そして、市民権を選ばなければ、自ずと、この世の市民権を選ぶことになってしまうのでしょうか。

Some profound changes happen when we become a citizen of heaven (as in 2 Corinthians 5:16-21)

しかし、私たちが天国の市民になることを選ぶと、第2コリント 5:16-21 に書かれているように、いくつかの重大な変化が起こるのです。

その私たちに起こる変化とは、まず、『[新しい世界観](#)』が生まれます。

[New worldview](#)

[新しい世界観](#)

2 Corinthians 5:16—¹⁶ So from now on we regard no one from a worldly point of view. Though we once regarded Christ in this way, we do so no longer.

第2コリント人への手紙5章16節— ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

We can no longer have a worldly point of view. That is, our whole mindset changes, with regards to:

16 節に書かれているように、私たちが天国の市民になることを選ぶと、私たちは、もはやこの世的な視点を持つことはできなくなるのです。つまり例えば、次のような事柄に対しての視点が変わります。

- people. We likely would have seen some people as horrible/rude/nasty/waste of space (that sort of thing). Now we see them as loved by God and lost in their ways. Possibly as people who require extra grace but that's okay, we give them extra grace. Our whole mindset changes, with regards to

- 私たちの人に対する考え方が変わります。

私たちはおそらく今までは、一定の人々を、ひどくて、粗野で、不潔で、存在自体が無駄のような、と言う見方をしたこともあるのではないのでしょうか。しかし天の市民となった今は、もしかしたら、そのような人々でさえ、神に愛されているが、さ迷っている人として見ることができるのではないのでしょうか。そのような人々でさえ（だからこそ）、私たちは彼らに特別な恵みを与えることができるのです。このように、私たちの人々に対する考え方が全く変わります。

- money. It's not ours anymore

- 私たちのお金に対する考え方が変わります。お金はもう自分のものだと考えなくなります。

- lifestyle. We don't live as we used to or as many others live. Alcohol, for example, in Australia has flooded the culture: feeling stressed - have a drink;

need to celebrate - have a drink; friends coming over - have a drink; depressed - have a drink - any reason is a good reason to have a drink). The same goes for language, entertainment, sexual morality etc

- 私たちのライフスタイルが変わります。

私たちは、今までのように、あるいは他の多くの人たちと同じような生き方はしなくなりません。例えば、オーストラリアではアルコール文化が氾濫しています。ストレスを感じたら一杯、お祝いが必要なら一杯、友達が来たら一杯、落ち込んだら一杯、どんな理由でも一杯、という風にです。同様に、言語、娯楽、性道徳などに対してもライフスタイルが変化します。

- our self image. We no longer think more highly or lowly of ourselves than we ought

- 私たちの自己イメージが変わります。私たちはもはや、自分自身を必要以上に高くも低くも評価しなくなります。

- outlook on life. Rejoice always. Give thanks in all things for this is God's will for us

- 私たちの人生観が変わります。いつも喜び、すべてのことに感謝するようになります。

- We have a heart of worship (trust) toward God not a heart of hostility (blame) These are the changes that happen when we become citizens of heaven.

- 私たちは、神を敵視する心（非難する心）ではなく、神を礼拝する心（信頼する心）を持つようになります。

これらが、私たちが天国の市民になった時に起こる変化なのです。

¹⁷ Therefore, if anyone is in Christ, the new creation has come: The old has gone, the new is here!

17 節 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

v17 explains the why and how of these changes very simply: *The new has come, the old has gone*. The two lifestyles or outlooks don't (or shouldn't) co-exist. *The new has come* - it's here now and this is the reality that we are working to realise.

17 節では、このような私たちの変化の理由と、私たちが変われる方法を非常にシンプルに説明してくれています。『新しいものが来て、古いものは去った』とやっているように、2つのライフスタイルや展望は共存しません（あるいは、共存すべきではありません）。新しいものが来たとあるように、新しいものは今ここにあり、新しいものこそが、私たちが実現に向けて取り組むべきものなのだと気づかなければならないのです。

John the Baptist: "He must become more, I must become less." (John 3:30) This is the physical outworking of the spiritual reality. It's a battle we must fight every day.

ヨハネによる福音書 3 章 30 節で、洗礼者ヨハネについて、「あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。」と書いています。これは、『霊的なものは現実となり物理的に現れなければならない』と言うことを意味します。そしてそれは、私たちが日々戦わなければならない、心の中での霊的な戦いなのです。

そして次の変化として、私たちが天国の市民になることを選ぶと、『[新しい関係](#)』が生まれます。

New relationship

新しい関係

¹⁸ All this is from God, who reconciled us to himself through Christ and gave us the ministry of reconciliation: ¹⁹ that God was reconciling the world to himself in

Christ, not counting people's sins against them. And he has committed to us the message of reconciliation.

18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

v18, 19 explain how this happens and how it is possible: "*We have been reconciled to God.*" "Reconcile" = "restore friendly relations between". An entirely new relationship.

"Through Christ", "not counting people's sins" are the key phrases. Forgiveness in Christ is the foundation to reconciliation with God. But reconciliation doesn't end with forgiveness. Upon the foundation of forgiveness God adds friendship, affection, love.

18、19 節では、どのように『新しいものが造られ、古いものは去る』ことが起こるのか、またそれがどのように可能なのかを説明してくれています。

「この世をご自分と和解させる」とありますが、「和解する」ということは、「友好関係を修復または回復する」という意味です。そしてその回復された関係は、まったく新しい関係であるということを指します。

『キリストにあって』、『責めを人々に負わせない』という言葉が大切なポイントとなります。キリストの赦しは、神との和解の土台となります。しかし、和解は、単に赦しだけには終わりません。神は、赦しという土台の上に、さらに友情、愛情、愛を加えてくださったのです。

The result of reconciliation with God through Christ is 3-fold:

- Our sins are no longer counted against us [our status has changed]
- We are friends with God/peace with God [our relationship has changed]
- We are ambassadors of Christ [our role has changed]

キリストによる神との和解の結果は、次の3つが挙げられます。

神との和解の結果、

- 私たちの罪は、もはや私たちに不利とはみなされません。すなわち、私たちの立場は変わります。
- 私たちは神と友であり、神と平和な関係を持っています。すなわち、私たちの関係は変わります。
- 私たちはキリストの大使となるのです。すなわち、私たちの役割は変わります。

最後の变化として、私たちが天国の市民になることを選ぶと、『大使としての役割』が生まれます。

Ambassadorship

大使としての役割

Ambassadors are citizens and representatives of another country. They don't belong to the country they live in. They belong somewhere else. Their allegiance is to another country.

大使とは、他国の市民が自国を代表するという役割をします。大使たちは、住んでいるその国に属しているのではありません。大使たちはどこか別の国の住人であり、彼らの忠誠心は自国にあります。

My wife is Japanese. She loves Japan. She loves Japanese food, Japanese people, Japanese language, Japanese customs, Japanese politics, Japanese laws, etc. Just loves them. No other country is as good. Australia's not bad and she's not uncomfortable there. But it's not Japan. Japan is where her heart and mind are and one day, that's where she will end up.

私の妻は日本人です。彼女は日本が大好きです。日本食、日本人、日本語、日本の習慣、日本の政治、日本の法律などを愛しています。とにかく日本の全てが大好きで、これほど良い国は他にないと思っています。オーストラリアも悪くないし、彼女もオーストラリアでの居心地は悪くはありません。でもオーストラリアは日本じ

やないし、日本が彼女の心の拠り所であり、いつか彼女が行き着く場所だと思っているようです。

That's a good illustration of our allegiance to heaven. We're citizens of heaven. We love heaven. We love the manna of heaven, the angels and heavenly host, the music of heaven, the heavenly laws and ways. The glory of heaven. We just love them! The world has some good things about it because it was created by God but it's not heaven. Heaven is where our hearts and minds are and one day, that's where we will gladly end up. We are ambassadors of the kingdom of heaven (our home), servants of Christ.

今のような私の妻の話は、『私たちは天に忠誠を誓っているのだ』ということをよく表しているのではないのでしょうか。私たちは天国の市民です。私たちは天国を愛しています。私たちは天のマナ、天使たち、天の軍勢、天の音楽、天での生活と天の法を愛しています。私たちは、天の栄光、それらをただただ愛しているのです。もちろん、この世界は神によって創造されたので良いところもあります。しかし、この世は天国ではありません。天国とは、私たちの心とマインドがある場所であり、いつか私たちが喜んで行き着く場所なのです。天の御国は私たちの家であり、私たちは天の御国の大使であり、キリストに仕える者なのです。

Note, we are ambassadors of heaven, not bureaucrats of heaven. We're not here to tie people up in rules or to approve or disapprove of how people live their lives. These days it's easy for us to caught up in moral and ethical debates and become the moral police. "You can't do that, you have to do it this way. I can't approve of that and you shouldn't condone this. These are God's rules." We're not here to be God's bureaucrats. We're here to reconcile people to God through Christ.

しかし、注意してほしいのは、私たちは天国の大使であって、天国の官僚ではないということです。私たちは、人々を規則で縛り付けたり、人々の生き方を承認したり否定したりするためにこの世にいるわけではありません。こんにち、私たちは道徳的、倫理的な議論に巻き込まれ、「それはダメだ、こうしなければならない。私はそれを認めることはできないし、あなたはこれを容認すべきではない。これは神のルールだ。」などと、道徳警察になってしまいがちではないのでしょうか。私たち

は、神の官僚になるためにここにいるのではなく、キリストを通して人々を神と和解させるためにここにいるのだということを忘れないでください。

Neither are we secret agents of heaven. Secret agents of heaven believe in Christ but they can't let anyone know that or it will blow their cover. They don't need to go to church all the time because that's a bit 'religious' and they are truly spiritual people, not religious people. So they quietly do good works and pray in solitude but they let very few people know who they really are and where their allegiance lies. Keep it on the low down. Keep people guessing.

また私たちは、天国の秘密工作員でもありません。どういうことかというと、天国の秘密工作員はキリストを信じているが、そのことを誰にも知られてはならないのです。そして彼らは教会に行く必要はないと思っているのです。なぜなら、教会に行くことは少し『宗教的』であり、彼らは宗教的な人々ではなく、本当はスピリチュアルな人々だと思っているからです。だから、彼らはひっそりと善い行いをし、こっそりと祈るのです。ですから、彼らが本当は何者で、どこに忠誠を誓っているのかを知る人はほとんどいません。自分たちの正体を伏せて、人々に推測させ続けるのです。

We are not bureaucrats or secret agents. [We](#) are ambassadors of Christ who [have been given the message of reconciliation](#).

[私たちは](#)官僚でも秘密工作員でもありません。私たちは[和解を伝えるために遣わされた](#)キリストの使者なのです。

So how does this message of reconciliation work? What exactly is our new role in this ambassadorship? What does the work of an ambassador for Christ look like?

では、この和解を伝えることは、どのようにはたらくのでしょうか？

この大使職における私たちの新しい役割とはいったい何なのでしょう？

キリスト大使の仕事とはどのようなものなのでしょうか？

1. Direction

1. 方向性

ではまず、和解のメッセージが持つ方向性についてお話しします。

This message of reconciliation works in 2 directions.

- i. We encourage people to be reconciled to God (upwards)
- ii. We encourage people to be reconciled to one another (outwards)

和解を伝えることは2つの方向に働きます。その2つの方向とは、

- i. 人々が神と和解するように勧めようとする。—これは、神へと上に向かっていています。（上向き）
- ii. 私たちが、人々が互いに和解するように勧めるようとする。—これは他へと外に向かっていています。（外向き）

This aligns with the two greatest commandments:

- i. To love God with all your heart, and
- ii. To love your neighbour as yourself

A one-way reconciliation is not enough. If you love your neighbour but fail to love God (humanism), you cannot be saved and your love of neighbour will be one-dimensional.

If you love God but fail to love your neighbour then your love for God would be questionable because it's not possible to truly love God and not love others.

そして、この2つの和解の方向性はキリスト教の二大戒律と実は一致しています。

- i. 心を尽くして神を愛すること
- ii. 隣人を自分のように愛すること

一方通行の和解では十分ではないのです。隣人を愛しても神を愛せなければ、それは単なるヒューマニズムであり、救われることはありません。結局、隣人への愛も

一面的なものに過ぎなくなります。しかしまた、神を愛しても隣人を愛せなければ、神への愛は疑わしいものとなってしまいます。

1 John 4:20,21— *Whoever claims to love God yet hates a brother or sister is a liar. For whoever does not love their brother and sister, whom they have seen, cannot love God, whom they have not seen. And he has given us this command: Anyone who loves God must also love their brother and sister.*

ヨハネの手紙第一 4章 20、21節—20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えないか神を愛することはできません。

21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

The message of reconciliation is outworked with passion: we passionately *appeal* to others; we *implore* then *on Christ's behalf*. *The stakes are high*. We don't tie people up in rules and we don't hide our faith from people. We bring a message of reconciliation, by our words and our deeds. We do this quietly, gently, demonstrably, in season and out of season, ready to give an answer to anyone who asks us about the way we live and what we believe. Reconciliation with God makes our actions and our faith inexorably entwined. That's what people respond to. The most powerful conversion experiences I have had the pleasure of being involved in were when people reacted to a Christian's lifestyle and asked questions, not when we went to them and told them what they needed. Then in God's timing, we implore them to be reconciled to God.

和解のメッセージは、情熱をもって伝えられるべきなのです。私たちは情熱をもって他者に訴え、キリストに代わって懇願しようではありませんか。それはとても大切なことだからです。人々を規則で縛ったり、人々から信仰を隠したりしないようにしましょう。そして、私たちの言葉と行いによって、神との和解のメッセージを人々に伝えましょう。私たちの生き方や、信じていることについて尋ねてくる人がいれば、人生に起こる幸せな時も、困難な時も、静かに、穏やかに、実証を通して、誰にでも答えられるようにしておきましょう。神との和解は、私たちの行動と信仰を不可分に結びつけてくれるのです。

私が今までに見ることができた最も力強い回心体験は、クリスチャンのライフスタイルに人々が反応し質問してきた時であり、私たちが人々のところに行って神のことを伝えようとした時ではありませんでした。ですから、私たちは、神のタイミングで他の人々が神と和解するようにと願いましょう。

This is why the work of DMI is so appealing to me.

We passionately love God - our faith is real - and this leads to a practical, muscular love of people, including those who are not like us. Especially those who are not like us.

実はこのことが、私が、国際ろう者支援団体である DMI デフ・ミニストリーズ・インターナショナルの活動に魅力を感じる理由なのです。私たち国際ろう者支援団体 DMI は、情熱的に神を愛し真の信仰を持ち、私たちとは異なる人々に対して、特に、私たちとは全く違う境遇や異なる人々に対して、実践的な愛のある活動をしているのです。

The parable of the good samaritan. The true neighbour wasn't out looking to love someone, he was simply ready to give it when the time came. He was the one who loved another not because they were the same kind but despite them not being the same kind. The samaritan and the Jew were enemies. Despite having a different language, culture and faith; despite being *hated* by the Jew, the Samaritan man loved the Jew and cared for him with a practical, muscular love of the man.

ここで、良きサマリア人のたとえについてお話ししましょう。『真の隣人』とは、自分の都合の良い時だけ困っている人を探して助けることを意味するものではありません。『真の隣人』とは、いつでもどこでも人を助ける用意ができている人のことを指します。同類だから助けるのではなく、同類でない異邦人にもかかわらず、自分とは違う人を愛する人が、『真の隣人』なのです。サマリア人とユダヤ人は敵同士でした。言葉も文化も信仰も違うにもかかわらず、ユダヤ人に嫌われているにもかかわらず、サマリア人はユダヤ人を愛し、実際に大きな愛をもってユダヤの人々の世話をしたのがサマリア人だったのです。

I partner in the gospel with people like Olivia. [Image] I met her for the first time in the DMI conference in Kenya last month. We have nothing in common. She's a woman, I'm a man. She's black, I'm white. She's young, I'm getting old. She's

Deaf, I'm hearing. She prefers Swahili, I prefer English. She's disabled, I'm able-bodied. She's dirt poor, I'm relatively rich. Could we be further apart?!

この女性はオリビアです。私はオリビアのような人たちと福音のパートナーとして働いています。先月、ケニアで開催された国際ろう者支援団体 DMI の会議で初めて彼女に会いました。でも、私たちには何の共通点もありません。彼女は女性、私は男性。彼女は黒人、私は白人。彼女は若く、私は年をとっています。彼女はろう者、私は聴者。彼女はスワヒリ語を話し、私は英語を話します。彼女は障害者、私は健常者。彼女は貧しいですが、私は普通の生活を送っています。私たちはこれほどまでに何から何までかけ離れて違っているのです。

In Christ, all of that is erased. There's no male or female, black or white, young or old, deaf or hearing, disability or poverty in Christ and fully so once we get to heaven. Olivia and I are siblings. We are reconciled from our differences to be one in Christ. [Image] We are true friends in Christ. We are co-ambassadors, working together to bring a message of reconciliation, imploring people to be reconciled to Christ.

しかし、キリストのもとでは、そのすべての違いが消し去られるのです。キリストには、男も女も、黒人も白人も、若者も老人も、耳が聞こえない人も聞こえる人も、障害も貧困もない。オリビアと私はキリストの下では兄妹です。私たちは、キリストにあってひとつになるために、互いの違いから解放され和解したのだと言えるでしょう。私たちはキリストにあって真の友人であり、お互いに大使であり、和解のメッセージを伝えるために共に働き、キリストと和解するよう人々に勧める立場なのです。

That's a pretty picture. It's not the only picture.

良いお話ですね。しかし、ただの良い話では終わらないでください。

I asked earlier, So how does this message of reconciliation work? What exactly is our new role in this ambassadorship? What does the work of an ambassador for Christ look like?

先ほど同じ質問をしましたが、またお聞きしたいと思います。
和解のメッセージはどのように働いていると思いますか？

大使としての私たちの新しい役割とはいったい何だと思いますか？
キリストのための大使の仕事とはどのようなものだと思いますか？

2. Stamina

2. 持続力や気力というスタミナ

では次に、キリストの大使としては、**持続力や気力というスタミナ**が必要だということについてお話ししたいと思います。

In the next chapter of 2 Corinthians, Paul brings us a second picture of what ambassadorship in Christ looks like. He writes, *“as servants of God we commend ourselves in every way: in great endurance; in troubles, hardships and distresses; in beatings, imprisonments and riots; in hard work, sleepless nights and hunger; in purity, understanding, patience and kindness; in the Holy Spirit and in sincere love; in truthful speech and in the power of God; with weapons of righteousness in the right hand and in the left; through glory and dishonor, bad report and good report; genuine, yet regarded as impostors; known, yet regarded as unknown; dying, and yet we live on; beaten, and yet not killed; sorrowful, yet always rejoicing; poor, yet making many rich; having nothing, and yet possessing everything.”* 2 Corinthians 6:3-10

コリントの信徒への手紙第二の次の6章では、パウロはキリストにおける大使職がどのようなものであるかを私たちに示しています。パウロは次のように書いています。： 非常な忍耐と、悩みと、苦しみと、嘆きの中で、むち打たれるときにも、入獄にも、暴動にも、労役にも、徹夜にも、断食にも、純潔と知識と、寛容と親切と、聖霊と偽りのない愛と、真理のことばと神の力により、また、左右の手に持っている義の武器により、ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりすることによって、私たちは人をだます者のように見えても、真実であり、人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。（第2コリント 6:3-10）

Okay, this is not what the travel brochure promised. Ambassadors are supposed to travel in style, with security, decent food and, frankly, with dignity. But this Christian ambassadorship comes with some glory, yes, but also with hardship, with beatings, imprisonments and with riots. We might want to reconsider our membership.

でも待ってください。これでは大使なのに旅行パンフレットの約束とは違いますよね。大使は、安全で、きちんとした食事があり、率直に言って、威厳を持って、格好良く旅行できることになっています。しかし、このキリスト教の大使職には栄光もあれば、殴打、投獄、暴動などの苦難も伴うと言っています。だったら、私たちは神の国の住民になるかどうかを考え直したほうがいいかもしれないですね。

Though on a completely different scale, last November I visited east Africa as an ambassador of DMI and of Christ. Unlike the conference trip last month which was totally cushy, I got a broken rib, a sprained wrist, heat stroke, and scabies (which lasted for 6 months). I also risked catching malaria.

旅行の規模はまったく違いますが、私は昨年 11 月、DMI からのキリストの大使として東アフリカを訪れました。しかし、楽勝だった先月のケニアでの会議旅行とは異なり、その時はアフリカ滞在中に、肋骨を折ったり、手首を捻挫したり、熱中症にかかったり、皮膚病にかかったりしました。（なんと治るまでに 6 カ月間かかりました。）さらには、マラリアにかかる危険もありました。

But that's nothing. I returned on a flight with unlimited movies and free drinks to a home with a very warm bed and Netflix and popcorn on the sofa of a Friday night.

しかし、アフリカではそんな大変な思いをしたのに、帰りは見放題の映画があるフリードリンク付きの飛行機に乗ることが出来ました。自宅に帰ると、暖かいベッドがあり、Netflix のあるテレビを見ることができました。しかも金曜の夜は、私はなんとソファで何事もなかったかのようにポップコーンを食べていたのです。

The real ambassadors of Christ today are in China, Russia, Middle East and other countries of persecution being locked up, mocked, beaten, fed faeces for dinner and tortured. (If you've read *The Insanity of God* you'll know what I'm referring to.)

しかし、こんにちの真のキリストの大使は、中国、ロシア、中東、その他の迫害の国で、監禁され、あざけられ、殴られ、夕食に糞便を食べさせられ、拷問を受けているのです。（『神の狂気』という書を読めば、私が何を言っているか皆さんもお分かりになると思います。）

The writer of Hebrews refers to these ambassadors not as the unfortunates of the faith but as the real heroes of the faith. *“Some faced jeers and flogging, and even chains and imprisonment. They were put to death by stoning; they were sawed in two; they were killed by the sword. They went about in sheepskins and goatskins, destitute, persecuted and mistreated—the world was not worthy of them.”* Hebrews 11:36-38

ヘブル人への手紙の著者は、これらの使節を『信仰を持つ不幸な人々』としてではなく、『信仰の真の英雄』としています。

ヘブル人への手紙 11章 36-38節 —36 また、ほかの人たちは、あざけられ、むちで打たれ、さらに鎖でつながれ、牢にいれられるめに会い、37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、38 —この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした—荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。

They were okay with that and today they continue to be okay with that because they don't belong to this world. They are not citizens of this world. [Ambassadors of Christ are citizens of another world: the kingdom of heaven.](#)

この箇所に書かれている様に、なぜこんなことになったのかというと、それは彼らがこの世に属していないからなのです。彼らがこの世の市民ではないからです。キリストの大使たちは、[天の御国](#)という別の世界の市民なのです。

You and I are unlikely to have that sort of heavily persecuted ambassadorship. The thing is you don't have to go to Russia or crack a rib to see the action. Whether you were born here in Japan or the Lord brought you here to Japan, there is a role for ambassadors for Christ right here - here in Osaka. People need to be reconciled to Christ. They also need to be reconciled to each other - within marriages, families, workplaces, neighbourhoods, friendships and so on.

あなたや私が、そのような激しい迫害を受ける大使になることはまずないでしょう。ロシアに行く必要も、肋骨を折る必要もないでしょう。あなたが日本で生まれたにせよ、主があなたを日本に連れてこられたにせよ、キリストの大使の役割はこの場所、つまりここ大阪にあるのではないのでしょうか。なぜなら、ここ大阪に住む人々もキリストと和解する必要があるからです。ここに住む人々も、夫婦、家族、同僚、隣人、友人関係などにおいて、互いに和解する必要があるのです。

[I implore you: be reconciled to God.](#) If you are not right with God, if you have not made Jesus your Lord and Saviour, the love of your life, then let today be the day. Talk to me after the service and let's see you reconciled to God.

Let this reconciliation with God freely influence your mindset - your language, your choice of words (have words seasoned with wisdom and grace), let it influence your attitude towards money, towards things that can lead to addiction, towards the way you make life decisions, towards time and how you spend it, towards your talents and gifts and how you use them, towards Christ and your worship of Him. Let your reconciliation with God shape all of these.

[あなたがたに願います。神の和解を受け入れてください。](#) もしあなたがまだ神と正しい関係にないのなら、まだイエスをあなたの主、救い主、あなたの生涯の愛と認めていないのなら、今日をその日としましょう。この礼拝の後、私に話しかけてくだされば、あなたが神と和解するのを見届けます。このような神との和解が、あなたの考え方、つまりあなたの言葉遣い、言葉の選び方（知恵と恵みに満ちた言葉の選び方）、お金に対する態度、依存症になる可能性のあるものに対する態度、人生の決断の仕方、時間とその使い方、才能と賜物とその使い方、キリストに対する態度、キリストへの礼拝の仕方などに影響を与えてくれることを望みましょう。神との和解がこれらすべてを形づくってくれるのです。

The love of Christ compels us in this. (5:14)

キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。(コリント人への手紙第二 5 章 14 節)

[I implore you: be reconciled to one another](#) - towards those you love, towards those you really don't like; towards those who have hurt you, towards those you

have hurt; towards those who scare you or offend you; towards those who bore you, towards those nearest to you, towards those wholly unlike you. As ambassadors of Christ with the message of reconciliation, keep your worship of God pure, and your forgiveness and blessing of others lavish.

あなたがたに願います。神の和解を受け入れてください。あなたがたが愛する人に対しても、あなたがたが本当に嫌いな人に対しても、あなたがたを傷つけた人に対しても、あなたがたを怖がらせたり怒らせたりした人に対しても、あなたがたを苦しめた人に対しても、あなたがたに最も近い人に対しても、あなたがたとは全く違う人に対しても、和解してください。皆さんどうか、和解のメッセージを伝えるキリストの使者として、神への礼拝を純粋に保ち、他者への赦しと祝福を惜しまないでください。

Pray